

たまはがね - 子どもがひらいた古代製鉄の道

1997年作品 / 85分 / 自主制作 / 福井県今立郡今立町

日本海をのぞむ越前の国は、古来、大陸・朝鮮半島にひらかれた地の一つであり、古代においては出雲とならび称せられる製鉄の地であった。六世紀初頭、大和の豪族たちを抑えて越前三国から台頭した継体天皇は、製鉄力を基盤にしたともいわれる。その越前平野東縁部の山地の裾にある小学校（今立町立南中山小学校）の子どもたちが、生まれ育ったふるさとの川から砂鉄を集め、古代の製鉄方法で、直径数ミリの銀白色に輝く鉄の粒、玉鋼をとりだした。

鉄づくりは、自然の中から人間にとって有用なものをとりだすという作業である。鉄づくりを通して、子どもたちはふるさとの土や水や風や火にふれ、心と体を解き放っていった。玉鋼という小さな粒は、いわば自分たちの手づくりだしたふるさとの姿の結晶ともいえ、その作業のなかで子どもたちは生き生きと活動した。

この鉄づくりは、大橋邦夫校長先生が提唱し、子どもたちを主体に、父兄やPTA、地域の大人たちの協力を得て、一九九六年の春と夏、そして秋に学校の休日と放課後の自由参加で行われた。フィルムでは、春から夏の作業の再確認のために行われた秋の作業を記録した。

福井平野の南部には越前中央山地と呼ばれる、標高六、七百メートルの山々でできた山塊がある。ここを源流として流れ出る川は、山の土砂を運び、土砂を川床に堆積させながら、大河九頭竜川に合流し日本海に流れ込む。福井県今立郡今立町はその山塊に沿って各集落がひらけ、平野部につながっていく。越前和紙や越前漆器の産地として有名であり、また隣接する武生市は越前打ち刃物の産地でもある。この地域は昔から伝統的な手工業を伝えてきた。

学校のすぐ近くを流れる鞍谷川は、校区の一つ、新堂で服部川と合流する。子どもたちは二つの川の合流する新堂の川床から磁石で砂鉄を集める作業を始めた。砂鉄を集める作業をしながら、子どもたちは砂鉄をもたらす山々や、自然送風に適した峠の地形、燃料となる炭や古墳を訪ねた。集められた砂鉄は木炭の粉を混ぜて砂鉄煎餅をつくる。そして、砂鉄を溶かして鉄（鋼）をとりだす炉づくりをした。

鉄まつり当日（炉に火を入れる日）炭と砂鉄煎餅を交互に炉に注ぎ風を送る。炉の温度は1400度前後。途中、炉の内部で溶けたものを掻きだすと、ドロドロに溶けたノロ（鉍滓）になっていた。それを冷して、割ってみると中からきらきらと輝く小豆粒程の玉が出てきた。炉に火を入れてから約七時間半後、送風を止めて炉を壊す。ノロの塊がでてきた。そのノロの塊を金槌で叩いて壊すと中から、玉になった鉄の粒が出てきた。後に調べるとこの玉は鉄分を95%以上を含有した鉄の粒だった。

身近な水と土と風と火の中から、私たちの祖先は銀白色に輝く、鉄分を多く含む小さな鉄の粒をとりだした。祖先たちがとりだしたその鉄の貴重さとその作業の膨大さ。子どもたちは、祖先たちの姿を生き生きと甦らせた。

協力 / 今立町南中山小学校・幼稚園

南中山小学校・幼稚園PTA

砂鉄と木炭で鉄をつくろう会

制作 / 姫田忠義 小泉修吉

演出 / 姫田忠義

撮影 / 伊藤碩男 澤幡正範 東正一郎

演出助手 / 水野慶子 青原慧水 吉野奈保子

制作デスク / 佐藤由紀子

音楽 / 姫田蘭

録音 / 東京テレビセンター

現像 / ヨコシネ・ディーアイエー

作画 / たくみ映画

映像技術 / (株) P P L

ランドサット映像 / R E S T E C

企画・製作 / 民族文化映像研究所

助成 / 芸術文化振興基金

ドラゴンリバー交流会への(財)

河川環境管理財団「河川整備基金」